

第23回国際宗教学宗教学会（IAHR）世界大会で発表

堀内 みどり

標記大会が8月24日から30日にかけて、ポーランドのクラクフにあるヤギェウォ大学（Jagiellonian University）で開催された。大会テーマは、「OUT OF EUROPE: Studying Religion(s) in Interconnected Worlds（ヨーロッパの外：相互に繋がる世界における宗教研究）」。開会講演は、Anna Niedźwiedz教授が「動き、対話し、変容する。ヨーロッパ外の宗教に関する民族誌的経験と人類学：相互に繋がる世界における宗教の研究」と題して行った。また、開催中は昼食後及び夕刻に特別講演があった。

今回はIAHRの大会が初めてパリで行われて125年、アムステルダムで学会として創立して75年、ヨーロッパ宗教学会の創立25年となる記念の大会となり、80カ国以上から参加があった。堀内は「東アジアにおける宗教と女性」のパネルにおいて「女性教祖：教祖を『おやさ』と呼ぶ天理教信者の信仰に関する一考察」と題して発表した。天理大学関係では、澤井真、岡田正彦、山川仁、澤井義次が発表した。

27日に行われた大会ツアーは3つあり、そのうちの「黒マドンナ」教会へのツアーに参加した。有名な巡礼地でもあり、教会には多くの巡礼者が詰めかけていた。一行は英語のガイドの案内で、教会を巡った。教会の壁には治癒した人々が置いていったであろう松葉杖などや奉納された数珠などが展示されていた。



写真展「天理大学 100年」（第2期）を開催

中村 滋子

おやさと研究所では、2025年9月13日～28日、写真展「天理大学 100年」第2期をおやさとやかた南右第二棟にて開催、期間中延べ253名が来場した。写真展第1期（5月）では、天理外国語学校設立時からの変遷を、天理大学ふるさと会（同窓会）所蔵の写真パネルをメインに展示した。第2期の展示では、

これらに加え、天理大学年史編纂室が所有する画像から「仙之内キャンパスの変遷」「語劇」「大学祭一みこし」「授業」「卒業」「天理駅・商店街」のテーマに分け、説明文を加えたパネルを制作した。

また、天理医療大学との統合（2023年）により、天理大学に医療学部が開設された経緯から、天理医療大学の前身である天理看護学院ならびに天理医学技術学校の歩みも、天理医療大学とともに写真でふりかえるコーナーを設けた。

今年度の天理大学創立100周年記念事業について、各活動をポスター展示した。そして、来る教祖140年祭に向けてという思いから、教祖60年祭から教祖130年祭までの「教祖年祭の歌」の歌詞を紹介した。



第380回研究報告会（2025年9月30日）

「日本統治期における台北幼稚園の成立と発展」

奥野 善雅（天理教海外部）

日本が台湾を統治していた期間、日本統治者は台湾の地に各種教育機関を開設し近代教育を推し進めた。本発表ではその中でも幼児教育に注目し、1900年から1944年まで運営された台北幼稚園の歴史をまとめ、日本統治者や教育を受けた子どもやその保護者が幼稚園をどのように評価していたのかなどを論じた。

台北幼稚園に関する史料の分析を通して、幼稚園に対する評価は時代ごとで変化していたこと、更には日本統治者、在日日本人、台湾人それぞれの幼稚園に求める期待が異なることを明らかにした。そのほか、日本人の立場や性格を理解したうえで交渉していく台湾人の動向から、積極的に近代教育を受容していったのではないかと私見を述べた。

最後に、本研究の残された課題として、（1）幼稚園の保育カリキュラムや行事などの活動記録を発掘し分析をすることで、日本統治者側が求める子どもの理想像を究明すること、（2）その理想像及び幼稚園で実際に教わった内容が子どもたちにどのような影響をもたらしたかを解明することを挙げ、本発表を締めくくった。

グローバル天理

第26巻 第11号（通巻311号）

2025年（令和7年）11月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市仙之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

おやさと研究所（HP）



印刷 天理時報社

Printed in Japan